

日本組織培養学会

昭和47年2月15日発行

会員通信  
第16号

発行責任者

佐藤 温 重

梅 田 誠

横浜市南区浦舟町

横浜市立大学医学部

045(231)2081

※ 第32回研究会

1971年11月8、9の両日梅田誠氏(横浜市大・医・組培)のお世話で第32回研究会が開催され、一般演題7題、シンポジウム「培養細胞と化学物質」16題の発表がおこなわれた。また、11月9日に開かれた学会総会では幹事会より後述のような学会運営、特にBibliographyの刊行と学会入会手続について改革案の提出があり、出席者多数の賛同を得て承認された。学会の改革についてはここ数年の懸案事項であっただけに、漸くそれが具体化したという点では特筆さるべきことであろう。

※ 幹事会からのお知らせ

昨年来、幹事会で再三再四検討した結果、次の事柄がまきましたので改めて皆様にお知らせいたします。(第32回研究会の総会で御報告)

1. ビブリオグラフィーの件： 刊行は従来通り続けるが、学会の予算からみて、大巾に経費節減する必要がある。また、刊行に関する労力も軽減する。主にこの2つの観点から、編集方針を変更し、その新しい編集を幹事会全員によって分業的に行なうこと。

〔注1〕： なお、第二次刊行物の文部省補助金申請は幹事長(奥村、国立予研)がその任にあたることになり、昨年遠藤浩良前幹事の援助のもとに申請手続をしました。

〔注2〕： 新しい編集方針の詳細については、後日各会員にお知らせします。

2. 学会の新入会員に関する件： 学会の若返り、さらに学会の内容をより充実させるために、新入会員の入会規定を変更しました。従来の入会申込資格は2つの条件：1) 組織培養の仕事に1年以上従事せる者、2) 組織培養に関する論文(共著も可)を1篇以上だしている者、ということでしたが、このうち第1の条件：組織培養に1年以上従事せる者のみを入会申込資格とする。但し、申込には2名の会員による推せんが必要であることは従来通りです。ご推せん下さる方は出来る限り慎重にお願いしたいと思います。以上の主旨で、今後学会の研究者層を厚くし、将来の学会発展を期したいと思います。
3. 学会活動の積極化の件： 1) 従来通りの年2回(春、秋)のシンポジウムのほかに、不定期に集会を開く。この集会では組織培養の技術的問題、また最新のトピックスなどからテーマを選び、希望者のみ参加して活潑に討議する。2) 組織培養関係の手技修得、あるいは共同研究希望など人々に幹事会が協力し、積極的にその仲介、情報の伝達などを行

なう。

これらの諸活動1), 2)を通じて、会員間ないしは会員-非会員間の研究上の交流を深めたい。3) 諸外国で開催される学会や研究会の内容等に関し情報をできるだけ早く収集し、情報入手希望の会員の方にその便をはかる。(この件は、現在、外国の諸氏と交渉中)

4. 今年度、来年度の学会、シンポジウムの開催の件：

1) 昭和47年 6月15日(木), 16日(金)

世話人： 田中達也氏(愛知県がんセンター研究所, 生物部)

2) 昭和47年10月30日(月), 31日(火)

世話人： 寺島東洋三氏(放射線医学総合研究所)

同協力者： 安村英博氏(千葉大・医・微生物)

橋爪 壮氏(千葉県血清研究所, 第2研究部)

テーマ： 「組織培養の意義」(内定)

場所： 放射線医学総合研究所

3) 昭和48年のシンポジウムの開催予定地で内定しているところ、札幌市。

☆ 組織培養学会 第32回研究会の感想

1971年11月8日(月)9日(火)の両日、横浜市民ホールにて第32回研究会が開催されました。シンポジウムテーマを“培養細胞と化学物質”として広い範囲の研究面をカバーしようとしたため、まとまりが悪い点もあった様で特に座長の先生には御厄介をかけたしまったと反省しています。しかし新しい研究分野が紹介され、包括出来たとすれば偏に各演者の優れた研究発表と、それを何かと一本の主題に結びつける様努力して下さった座長の先生方のお陰と心から感謝しています。

大きな会場を貸りたこともあり、当初なるべく大勢の人に集まって貰って聞いて欲しいと、私共なりの努力はしてみました。会員は居られないが培養の仕事、シンポジウム演題に関連した様な教室をもつ数多くの大学にプログラムを送ったりしました。しかし参会された人々の名簿をみますとその反響はあまりなかった様です。非会員の場合あくまでこの学会は各会員のconnectionから培養の仕事を手がけられて居られる方々が聞きに来られていると云う感じをうけました。一方東大薬学の遠藤先生にお願いしてプログラムを会社関係の人々に配って貰ったのですが、この方は可成り多数集まっておられた様です。その様な内訳で会員が約100人、うち非会員も約100人出席されていました。私なりの反省ですが以上の様な非会員の人達も何かと本学会のinformationが得られる様な方法をこうしても良いと考えています。

又、私事みたいなことですが、私共の横浜市立大学から学会開催にさいし若干の補助金があったよけるというので喜んで補助申請をしようとした所「学会開催」には補助するが、「研究会開催」には補助しないとの返事でした。いろいろ説明して納得してくれたもののお役所

の仕事の融通なさを思い知らされました。今後研究会を開催される各世話人の方々の為、この名称も再考すべき様な気がしました。

以上私なりの印象と反省について拙文を記しました。

次回研究会が盛大な研究発表会となります様祈っております。

梅 田 誠

### 光 第33回日本組織培養学会研究会のおしらせ

下記の要領によって研究会を開催いたしますのでおしらせ致します。

本年は会員の理解を深めるため一般演題に重点をおきたいと存じますので、宜しく願い申し上げます。

#### 記

日 時 昭和47年6月15日(木)、16日(金)

場 所 愛知県産業貿易会館

名古屋市中区丸の内5丁目1-6 〒460

電話 (052) 231-6351

演 題 (A) 特定演題：細胞の変異と表層膜の関連性

(B) 一般演題：映画を含む

発表時間 各題原則として15分、討論10分(長時間ご希望の方はお申出下さい)

#### 演題申込要領

1. 所定申込書に所要事項ご記入の上昭和47年4月15日までに下記世話人まで御送り下さい。それにもとづいて抄録用紙をお送りいたします。
2. 上記抄録は昭和47年5月10日(水)までに世話人迄ご送附下さい。尚Annual Bibliography用の英文抄録(タイプ用紙にダブルスペースで1枚以内、型式は従来刊行の通り)を必ずご添付下さい。

世話人 田 中 達 也

愛知県がんセンター研究所生物学部

〒464 名古屋市千種区田代町

電話 (052) 762-6111

内線 711・717

### 光 1971年秋(昭和46年)新入会員

1. 佐 治 董 豊 岐阜大学医学部第2外科

〒500 岐阜市司町40

TEL 0582-65-1241

2. 森 澄 子 東京医科大学病理学教室

〒160 新宿区東大久保1-42

TEL 03-351-6141

3. 小林茂保, 東レKK基礎研究所ウイルス研究室

〒248 鎌倉市手広1,111 電 0466-22-7136

次 新入賛助会員

1. Microbiological Associates, Inc. (6口)

(マイクロバイオリジカル・アソシエーツ社)

連絡先 日綿実業株式会社企画開発部 (佐藤昭彦)

4733 Bethesda Avenue

Bethesda, Maryland 20014, U.S.A.

次 会員名簿について

例年2月に発行しておりました会員名簿は本年度予算節減のため追加部のみ発行することになりました。会員通信と同時に会員あてに発送しますので1971年版の会員名簿の末尾に貼付けて下さい。近くおこなわれる予定の幹事選挙の際に被選挙人名に疎漏がないように注意して下さい。

次 編集後記

前号で第16号は学会の基本的あり方に関する特集号とする予定をお知らせしましたが、原稿が思うように集めることができず、この様な形の16号を皆様におとどけすることになりました。編集幹事の怠慢のいたすところであり皆様にお詫び申し上げます。